

# マネージメント情報 2026 年 04 月

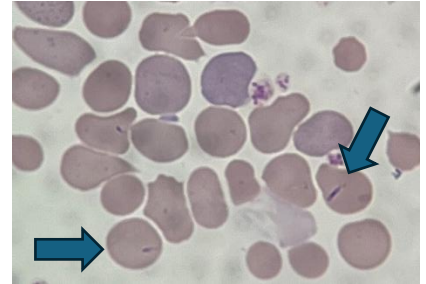
## ～マダニの最新情報～

櫻山真千子

だんだんと暖かくなってきて、マダニが活動する季節になってきました。2025 年 10 月の M 情報でマダニが媒介する疾病であるピロプラズマ症について掲載しましたが、先日エランコさんに最新のマダニ情報をいただいたのでこちらでご報告いたします。

### 【ピロプラズマ症とは】

ピロプラズマ症はバベシア原虫またはタイレリア原虫の感染による疾患です。マダニによって媒介され、赤血球内には写真のようなピロプラズムが出現します。この原虫により赤血球が破壊され、牛は貧血を起こし、貧血による各種症状を示します。特に放牧中心の農家さんや育成牧場で問題となっており、増体不良や繁殖障害により大きな経済損失を生んでいます。

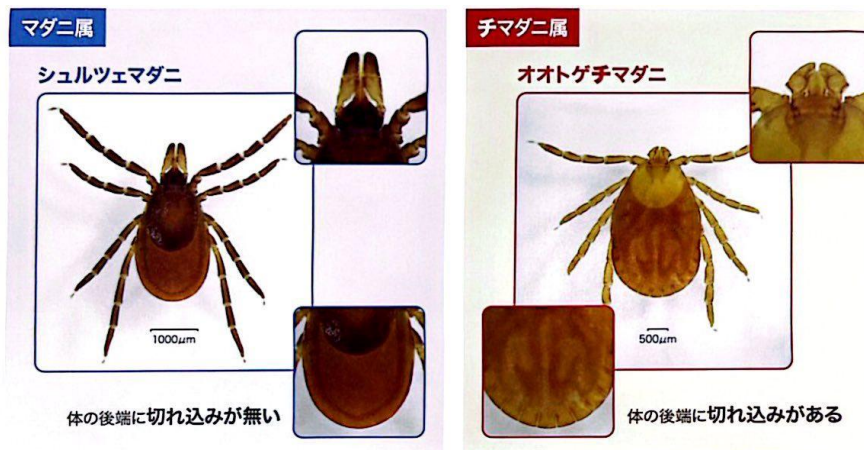


### 【道東でもマダニが増加しています！】

近年、ダニの運び屋である“シカの増加”と“平均気温の上昇”により、マダニの生息数が増加しています。また、今まで道東に生息していたマダニ属とは活動時期の異なる“チマダニ属”が日高山脈より西側から侵入してきたことで、活動時期が広がっています。従来のマダニ属は4月～7月ごろに活動し、ピークは6-7月で、秋ごろになるとほとんど活動しません。しかしチマダニ属は3月～11月まで活動し、春と秋に2回活動ピークがあります。このため従来のマダニ対策では不十分です。

### 【チマダニとは？】

北海道に生息するマダニは主にマダニ属とチマダニ属に分けられます。おなじマダニ科でも、属・種によりその生態や特徴が大きく異なります。従来生息していたマダニ属にはシュルツェマダニ、ヤマトマダニがあり、チマダニ属にはフタトゲチマダニやオオトゲチマダニ、ヤマトチマダニ、イスカチマダニなどが含まれます。いろいろなマダニがありますが、まずはマダニ属なのか、チマダニ属なのかの判別が重要です。



### 【有効な対策とは？】

シカが放牧地に入っこないようにする**環境対策**が最も重要だそうです。まずは駆虫薬！と考えがちですが、シカが入っこないように対策されている場所ではマダニがほとんど採取されないそうです。具体的な対策としては、**放牧地を2重柵で囲う、放牧地周りの笹藪を刈り取る**ことです。とはいっても十分な環境対策は難しいので、殺ダニ剤も併用し、付着したダニを駆除しましょう

### 【有効な殺ダニ剤は？】

もっとも効果的なのは**バイチコール**などのフルメトリン製剤です。フルメトリン製剤はマダニに触れるだけで効果があります。マダニの神経細胞膜上のナトリウムチャンネルを標的とし、チャンネルの開閉を異常に持続させることで神経伝達を阻害、マダニを麻痺させ死滅させます。イベルメクチン製剤も使用されている方もいらっしゃるかもしれませんが、マダニへの効果は不十分です。イベルメクチン製剤はマダニの吸血抑制効果はありますが、死滅はさせません。また1回噛みついてしまうのでその間に病原原虫がウシに感染してしまいます。



### 【まずはマダニの種類と生息密度を調べてみましょう】

放牧に出していて気になる症状がある方、症状がなくても牛を放牧地に出されている方は是非マダニ調査を実施してみましょう。調査は放牧地にて大きな布を引きずってくっついてきたダニを調査するという簡単な方法です。まずは**チマダニがいるのかいないのか**、が対策期間を考える上で重要です。次に密度を確認し、どの頻度でフルメトリン製剤を塗布すべきか検討しましょう。

#### ●チマダニ属が

- ・ **いる**：重点対策期間は**5-10月**
- ・ **いない**：重点対策期間は**5-7月**

#### ●バイチコールの塗布頻度

マダニが高密度に生息、被害も大きい：**2週間に1回推奨**

→対策により段々マダニの数が減ってきた：3-4週間に1回でも可

### 【フルメトリン製剤の塗布の仕方】

鼻根部～背線に沿ってしっかりかけましょう。投与約1日で全身に広がるので、放牧前日までに投与しましょう。吸収や体内浸透は限定的なため、搾乳牛にも使用できます。また体表面にとどまるため長期間にわたる残効性があります。

### 【さいごに】

マダニの増加によりピロプラズマ感染のリスクが高まっています。大切なウシを守るためにマダニ対策をしっかり行いましょう。マダニ調査に興味がある方は是非獣医師までお声がけください！